



ホット通信～



私たちは草原環境を守るため、草堆肥を使って野菜づくりをしています。

阿蘇草原再生シール野菜をご存じですか？

昨年7月、草を使った堆肥で健康な野菜をつくり、草原環境の維持に努めようという「草原再生シール生産者の会」が発足しました。メンバーは、これらの野菜にシールを貼り、直売所などで販売し、「野菜をたべて草原を守ろう」と環境維持活動を展開しています。

昔の堆肥づくりで草の利用はあたりまえのことでしたが、時代の流れとともに化学肥料へと移行。しかし再び、草原維持や畑の土壌の安全に適した先人の培った農業が見直されています。

阿蘇草原再生シール野菜は「四季彩いちのみや」「あぜり庵」「はな阿蘇美」「もっこす市場」で販売されています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

草堆肥で作った野菜はうまみがあります。

「草原再生シール生産者の会」
代表の市原啓吉さん



草を刈る作業は労力がいりますし、堆肥を完熟するには半年以上かかります。しかし、草原を守り、安心安全な野菜を消費者に提供するため、会員皆、がんばっています。7月22日、8月2日には、鶴屋百貨店東館でキャンペーン販売も行います。多くの人たちに、草原維持を呼びかけたいと思います。

また、活動の拡大のため会員も募集しています。皆さまのご協力をお願いします！

<http://www.aso-sougen.com/prduce/grass/>



小野トキさん(92歳) 全国食生活改善推進員

団体連絡協議会名誉会員賞を受賞



▲小野トキさん

90歳以上の食生活改善推進員に贈られる、全国食生活改善推進員団体連絡協議会名誉会員賞の伝達式が5月26日、熊本県食生活改善推進員協議会総会で行われました。

小野さんは、旧一の宮町の食改設立当初から推進員として活動してこられ、ご自身で健康生活数え歌を作詞・作曲され、歌を通して健康推進活動に取り組んでおられます。

また、毎日の日記も欠かさず、「反省と感謝」の言葉で一日を振り返っておられます。趣味は俳句づくりで、今回の受賞の喜びを次のように詠んでおられます。

『万緑や受賞嬉しき根子の峰』

「元気でこれたのも、食改活動をしていたおかげです。死ぬまで活動します。」とおっしゃる小野さんは、両手が床につくほど体が柔らかく、また頭もともしなやかで周りの人々に元気をあたえておられます。小野さんの活動をお手本に食改会員も今後さらに推進活動に励まれるものと思います。

